

A-93 沖永良部島和泊町の食生活について—母親と子どもの栄養摂取状況—
鹿児島女子短期大学 小屋敷武彦 ○外西寿鶴子

目的 本学生活科学研究所では、昭和45年8月下旬より9月上旬にかけて、奄美群島沖永良部和泊町の国頭、後蘭、手々知名の3部落における住民の生活実態調査を行った。この調査で過疎化現象による若年層の島外離脱や出稼によっておこる主婦の労働過重や子どもへのしわよせ等を考え、母親と子どもの栄養摂取状況について検討したので報告する。

方法 対象は上記の3部落である。国頭は島の北端に位置し、キビを主体とした畑作で更にエラブユリ、フリーヤの球根栽培が盛んである。後蘭は内陸部で木田農業地帯、手々知名は町の中心街で商業、給与生活者が多い。国頭354世帯中55、後蘭43世帯中30、手々知名182世帯中35を無作為抽出し、3日間個人別に秤量調査し、健康診断では血液検査(全血比重、H.b)、同時に児童生徒の体位についても測定した。

結果 1. 母親125名の栄養摂取状況は、軽い労作の者ではV.B₁、普通労作ではたん白質、V.B₁が所要量を上まわっている外はいずれも充足されていない。特にやゝ重い労作では凡て不足している。食品摂取状況では緑黄、淡色野菜、牛乳、果物の摂取が極めて少なく、一世帯当り一日の使用食品数も19.4で少なく、調理形態も単調である。

2. 全血比重、H.b量の検査でも約50%の人に貧血が認められた。3. 子どもの栄養摂取状況について、1才~5才の平均充足率をみると悪く、特にCa、V.Aが最も不足している。6才~14才の男子では鉄、V.B₁は充足し、女子でも鉄以外は不足している。4. 体位も全国との格差が大きい。5. 母親と子どもの栄養摂取による相関をのべる。